



「自然に学ぶ」

Learn from Nature

取締役社長 岡部 弘

Hiromu OKABE

「日本人にアレルギー体質の人が多いのは、回虫がほぼ完璧に駆除されたことに原因がある」とは回虫博士として著名な藤田絃一郎氏の話である。思うに自然の摂理とはまことに不思議なものであり、まだまだ人間にとって未知な部分が多い。それだけに自然を学ぶことによって教えられることも沢山あるように思われる。

以上のようなことを思い出しながらこの巻頭言を書いている。その理由はここで世に言う発明 or 発見というのはどうして生まれるかということのを改めて考えてみたいと思ったからである。一般に発明 or 発見というのは個人の独特の能力により突然生み出されるものだと考えがちであるが、私はそうではないと思っている。発明・発見というのは「先人によって蓄積された知識」に「目的意識」がプラスされ、それらに「インスピレーション」が加わることによって生み出されるものであるというのが私流の考えである。「先人によって蓄積された知識」がベースになるということは、ある所までは先人の知恵を真似するということである。従ってより多くの先人の知恵を身につけていた方が発明 or 発見に役立つものと考ええる。

「インスピレーション」は身の回りに存在するいろいろな事柄（あるいは過去の経験・歴史の教訓）といったものから得られる事が多いが、特に自然を観察することが大変重要であると思っている。今世の中では「複雑系の科学」というものが持てはやされているが、これまでの科学が如何に進歩しても人間社会を含む自然界の諸々の事象を解明できなかったのを、発想を変え（複雑な事象を個に分解してとらえるのではなく、総合的にとらえる）、ありのままにとらえることによって見直そうということだと思う。人間社会は所詮自然との密接な関わり合い無くしては成り立たない。そして人間社会が本当に困難にぶつかった時には一度原点（自然）に帰ることが必要となる。

現在デンソーは新しく迎える未知のそして厳しい事業環境を全員でもって「可能性のドア」を開くことによって乗り切ろうとしている。「可能性のドア」を開くということは、いうまでもなく、新しい知恵を出し合うことによって社内のあらゆる側面を変革し、企業競争に勝ち抜くことを意味するが、とりわけ重要なことは製品競争力の強化である。新たな技術開発によってデンソーでしか作れない差別化された製品を生み出し、もの作りの優位性と相まって競争力のある製品を作り上げること。これが最重要課題である。

このように考えた時、今会社の内部がそのような知恵を出すにふさわしい状況になっているかど

うかが問題となる。多くの先人の知恵を身につけることも、自然に学ぶこともある程度の時間の余裕が不可欠である。そのためにマネジメントに携わる人達はある程度無理のない姿で部下の人達が仕事のできるように常に配慮しなければならない。

このように言うとなちまち反論が出てくるに違いない。現在はスピードが要求される時代であり、走りながら考えることこそ必要ではないかと。また、「発明・発見は99%のパースピレーションと1%のインスピレーションによってもたらされる」とも言われるのではないかと。要は各人の意欲と努力の積み重ねが何よりも必要ではないかということである。これらの意見に異論をはさむものではないが、余裕（または心のゆとり）があれば良い知恵が出しやすいことは確かであると思う。

そして更に付け加えれば、「目的意識」の持ち方が重要である。より深く、より持続して目的意識を持ち続けること。これは強い願望と言い換えた方が良いかも知れない。最近の実証的研究によれば、強い願望を持ち努力し続ければやがてその願いは成就すると言われている。また個人的経験に照らしてみても、深く問題意識を持って考えていると、思わぬ時に良いアイデアが浮かぶという事がある。そして強く問題意識を持って考えることは四六時中場所を問わずどこでもできることである。問題は従業員一人ひとりがどこまで問題意識を共有化できるかということであり、そのために相互に納得できる仕事のやり方、やらせ方が必要であると思う。

いずれにしてもこれからの企業競争の成否は個人としての知恵を組織的に如何に高めて行けるかどうにかかっている。そしてそのためにはその成果が個人の幸せにつながるものでなければならない。DENSO VISION 2005 で述べているように、個人の幸せが会社の繁栄につながり、会社の繁栄が社会の発展に確かに繋がっているということを実感できる組織風土を是非とも作り上げたいものだと思っている。